

# セキュアクライアントの自動更新が原因でアプリケーションアクセスが失敗する

## 内容

---

## 問題

Cisco Secure Clientが自動的に新しいバージョンにアップデートされた後に、ユーザがアプリケーションにアクセスできなくなるという、サービスの中断が繰り返し発生しています。自動更新は、シスコがセキュアクライアントソフトウェアの新しいバージョンをリリースするたびにトリガーされます。これにより、アプリケーションアクセスの障害が発生し、解決には介入が必要になります。そのため、新しいクライアントがリリースされるたびにユーザの接続が中断される可能性があるという、運用上の課題が継続的に発生しています。

## 環境

- Cisco Secure Accessとセキュアクライアントリモートアクセス
- Secure Accessダッシュボードから手動でインストールされたCisco Secure Client
- MDM、SCCM、Intune、JAMFなどの展開ツールを使用していない
- AnyConnect/Cisco Secure Clientの自動更新機能がUmbrellaで有効

## 解決方法

自動クライアントアップデートは、Cisco UmbrellaのAnyConnect/Cisco Secure Client自動更新設定によってトリガーされていました。この問題を解決し、アプリケーションアクセスの中断を引き起こす自動更新を防止するには、Umbrellaダッシュボードの自動更新機能を無効にします。

ステップ1: Cisco Umbrellaダッシュボードにアクセスする

組織 ( この場合はORG 4007750 ) のCisco Umbrellaダッシュボードにログインします。

## 手順2：自動更新設定を見つける

Umbrellaダッシュボード内のAnyConnect/Cisco Secure Clientの自動更新設定セクションに移動します。

## ステップ3：自動更新機能を無効にする

AnyConnect/Cisco Secure Client Auto-Update設定をオフにして、クライアントの自動アップグレードが行われないようにします。

## ステップ4：解決策の確認

自動更新機能を無効にした後、ユーザがアプリケーションに正常にアクセスできること、およびクライアントの自動更新が行われないことを確認します。

この回避策により、ITセキュリティチームは根本原因を調査し、アプリケーションへの安定したユーザアクセスを維持しながら、より永続的な修正に取り組むことができます。

## 原因

自動クライアントアップデートは、Cisco Umbrellaで有効にされたAnyConnect/Cisco Secure Client自動更新機能によって開始されていました。この設定は、新しいバージョンが使用可能になったときにセキュア・クライアントのインストールを自動的にアップグレードするように構成されており、これによってアプリケーション・アクセス障害が発生していました。Cisco Secure Accessバックエンドインフラストラクチャ自体には、クラウド側からのクライアントのアップグレードを強制する自動更新フラグがないことが確認されました。

## 関連コンテンツ

- [シスコのテクニカルサポートとダウンロード](#)

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。